

令和7年度

学校危機管理マニュアル

07 板橋区志村第六小学校

3. 災害対応

I. 「東海地震に関連する情報」の概要

「東海地震に関連する情報」について

- (1) 「東海地震に関連する情報」は、
 - 「**観測情報**」東海地震の観測データに異常が現れているが、東海地震の前兆現象の可能性について直ちに評価できない場合に発令。
 - 「**注意情報**」東海地震の前兆現象の可能性が高まったと認められた場合に発表。
 - 「**予知情報**」東海地震が発生する恐れがあると認められた場合に発表。の3つのレベルに分けられる。
- (2) 予知情報を受けて、内閣総理大臣は**強化地域**に、**警戒宣言**を発令する。
- (3) 東海地震発生時には、震度5弱・5強程度の揺れが予想されるため、板橋区は強化地域になっていないが、学校関係は**強化地域に準じて対策を講じること**としている。

II. 東海地震「警戒宣言」発令時の対応

「警戒宣言」発令時

- (1) 「東海地震警戒宣言」等の伝達
 - ① 来校者、児童、教職員に対して、「警戒宣言」「地震予知情報」等の内容を非常放送、校内放送等により伝達する。
 - ② 冷静な行動、とるべき措置について周知する。
- (2) 児童等に対する措置
 - ① 在校時は、原則として授業を打ち切り、学校において直接保護者に引き渡す。
 - ② 通学中又は在宅中に警戒宣言が発せられた場合は、休校とする。
なお、登下校時にあつては、帰宅する等の措置を講じる。
※留守家庭等の児童については、学校で保護する。
- ③ 校外活動時
 - (ア) 宿泊を伴う校外活動時（倉渕・日光移動教室等）の場合は、強化地域内外を問わず、所在地の警戒本部または災害対策本部の指示に従い、速やかに学校に連絡する。情報を保護者に連絡するとともに、対応状況を教育委員会指導室に報告する。
 - (イ) 宿泊を伴わない校外活動時（遠足、社会科見学等）の場合は、所在地の官公署等から連絡を取り、速やかに学校に連絡し、原則として即時帰校する。
帰校後の児童の措置は在校時と同様にする。
ただし、交通機関の通行や道路の状況によって帰校することが危険と判断される場合は、近くの学校等安全な場所に避難するなど適宜措置をとる。この場合は、速やかに学校に連絡する。学校は、保護者に連絡するとともに、対応状況を教育委員会指導室に報告する。

4. 巨大地震(震度5弱以上)が発生した場合の対応

I. 巨大地震が発生した場合の初期対応

1 学校災害対策本部の設置

震度5弱以上の地震が発生した場合は、地震の発生時間が、教職員、児童の在校中の場合と夜間や休日等で不在の場合とでは、初期対応は異なるが、早期に学校災害対策本部を設置し、初期対応を行う。

本部長（校長）

総括本部

- 校長、副校長及び各班長（又は代理者）を中心に教職員で構成。
- 各班との連携のもと、校内の被災状況等の把握を行うとともに、区災害対策本部、教育委員会事務局等との連絡にあたる。
- 被害の状況等に応じて、第二次避難場所への避難、応急対策の決定など児童、教職員の安全確保や地域防災拠点の運営支援などの業務に関し、各班との連絡調整を行う。
- 非常持ち出し書類等を搬出
- 報道関係等の対応

避難誘導・ 安否確認班

- クラス全員の安否を確認し、総括本部に報告する。
- 安全確認した児童は、安全連絡カード等によりチェックする。
- 就業時以外の時間帯に被災した場合は、教育活動・授業の再開に向けて、児童、教職員の家族の被災状況及びその安否を早急に確認する。
- 救出・救急医療班との密接な連携のもとに行動する。

消火・ 安全点検班

- 火災が発生した場合は、初期消火活動を行う。
- 校内の被害状況を点検し、安全を確認するとともに、第二次避難場所及び避難路を確保する。
- 二次災害等の危険を防止するために必要な措置を講じる。

救出・ 救急医療班

- 養護教諭及び救命・救急経験者等を中心に組織する。
- 建物被害又は備品等の転倒等に巻き込まれた者の救出・救命にあたる。
- 避難誘導・安否確認班と密接な連携をとり、負傷した児童、教職員や近隣から校内に運び込まれた負傷者の保護に努め、必要に応じて、地域医療救護拠点や病院など専門医療機関への搬送を行う。

Ⅱ. 震度5弱以上の地震が発生した場合の対応行動【対応マニュアル】

◎原則として避難場所は、校内各教室。児童は、保護者へ引き渡す。

1 授業中

教職員

○落下物・転倒物・ガラスの飛散から身を守るよう指示する。

➡ 的確な指示「頭部を保護」「机の下にもぐる」「机の脚を持つ」など

○使用している火気の消火、出口の確保に努める。

〈大きな揺れが収まったら〉 ○ストーブ、コンロ、ガス等の火を消す。

○電源を切り、ガスの元栓を閉める。

児童

○慌てて外に飛び出さない。窓や壁際から離れる。

○廊下や階段で地震を感じたら、できるだけ中央に伏せ、ガラス等から身を守る。

○体育館では、できるだけ中央に避難する。（ただし、天井等の状況による。）

○校庭にいるときは、落下物を避けるため、速やかに校舎等から離れ、校庭中央に避難する。

○教職員の指示をよく聞き、勝手な行動をとらない。

教職員

○児童の状況を速やかに掌握するとともに、名簿、引き渡しカード、ホイッスル等を携帯し、児童を校舎内(教室)に誘導し待機させる。その際、便所、保健室、特別教室等の普通教室以外の場所にいる児童の所在に十分留意する。

○落下物に注意し、防災頭巾等で頭部を保護するよう指示する。

○児童の不安の緩和に努める。

○避難の際に援助を要する者への対応には十分配慮する。

➡ 的確な指示「おさない」「かけない」「しゃべらない」「もどらない」

○校内にいる人員を把握する。

○負傷者の有無を確認する。

○二次災害の危険が予想される場合は、直ちに安全な広域避難場所へ移動する。

(二次避難場所・・・城北公園)

児童

○防災頭巾等で頭を守り、静かに教室内で待機する。

○ガラスの破片でけがをしないように注意する。

○教職員の指示をよく聞き、勝手な行動をとらない。

火元確認 ・ 設備点検

教職員

○出火を確認したら直ちに初期消火に当たり、延焼を最小限に止める。

○理科室の薬品類は発火等の危険が大きいので、特に注意する。

○校舎や校庭等で危険と思われる場所に、立ち入り禁止の張り紙やロープを張るなど、二次災害を防ぐ。

救出活動 ・ 応急救護

教職員、児童

○養護教諭を中心に救出・救急医療班を編成し、応急救護にあたるとともに、地域医療救護拠点や医療機関と連携を図り、重傷者の搬送等を行う。

○避難誘導・安否確認班、消火・安全点検班と連携して、行方不明者の搜索、救出活動を行う。

○消防機関、消防団などの協力も得て、建物の倒壊等により生き埋めになった児童、教職員等の救出救助活動を行う。

情報収集
・伝達

教職員

○区災害対策本部と密接に連携をとり、地域や通学路の状況（出火、倒壊、亀裂、出水など）の確認に努める。

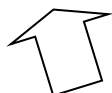
状況に応じた児童
の引き渡し

教職員

○保護者が引き取りに来るまで、教室で待機させ、児童の引き渡しを開始する。

児童

○保護者と帰宅中も、周りの建物等の状況に注意して行動する。



特別支援学級(五組)の場合

教職員

- 帰宅させないで学校において直接保護者に引き渡す。
- 保護者と連絡が取れない場合等、引き渡し困難な児童については学校で保護する。
また、保護者宅、学区の避難場所の安全性が確保できない場合は、保護者とともに児童を学校で保護する。

2 放課後・登下校時

安
全
確
保

教職員

○校内にいる児童に、落下物・転倒物・ガラスの飛散から身を守るよう指示する。

➡ 〈大きな揺れが収まったら〉

- ストーブ、コンロ、ガス等の火を消す
- 電源を切り、ガスの元栓を閉める。

児童

〈学校内にいるとき〉

- 窓ガラスなど落下物等から身を守る。
- 慌てて校舎外に飛び出さない。窓や壁際から離れる。
- 廊下や階段で地震を感じたら、できるだけ中央に伏せ、ガラス等から身を守る。
- 体育館では、できるだけ中央に避難する。（ただし、天井等の状況による。）
- 校庭にいるときは、落下物を避けるため、速やかに校舎等から離れ、校庭中央に避難する。

〈通学路上〉

- 看板、家屋の外壁、高いビルの窓ガラスなど落下物等から身を守る。
- 最寄りの避難場所、あらかじめ定めてある避難場所、近くの公園、空き地など安全な場所へ、直ちに避難する。
- 登下校途中で地震が発生した場合は、学校か自宅か近い方に避難する。
- バス、電車等に乗っているときは、運転手・駅員等の指示に従う。
- 地震発生時に危険な場所には近づかない。



- 古い建物や建設中の建物、ブロック塀、石塀、自動販売機、地割れした道路、狭い道路、倒れた電柱、垂れ下がった電線、火災現場には近づかない。
- 崖下、川岸、橋の上、ガス漏れ箇所等からは、速やかに遠ざかる。

- 家庭や学校と連絡を取って状況を報告するとともに、その指示に従う。
- 流言等の不確かな情報に惑わされず、落ち着いて行動する。

〈学校内にいるとき〉

教職員

避難誘導

- 児童の状況を速やかに掌握するとともに、名簿、引き渡しカード、ホイッスル等を携帯し、児童を安全な場所に誘導する。その際、便所、保健室、特別教室等の普通教室以外の場所にいる児童の所在に十分留意する。
- 落下物に注意し、かばん、防災頭巾等で頭部を保護するよう指示する。
- 児童の不安の緩和に努める。
- 避難の際に援助を要する者への対応には十分配慮する。
- 校内にいる人員を把握する。
- 負傷者の有無を確認する。
- 二次災害の危険が予想される場合は、直ちに安全な広域避難場所に移動する。

児童

- 防災頭巾等で頭を守り、荷物を持たずに上履きのまま行動する。
- 避難の途中で教室等に戻ったり、みだりに集団・隊列から離れたりしない。
- ガラスの破片でけがをしないように注意する。
- 教職員の指示をよく聞き、勝手な行動をとらない。

火元確認 ・設備点検

教職員

- 出火を確認したら直ちに、**消火・安全点検班**が中心になって、初期消火に当たり、延焼を最小限に止める。
- 理科室の薬品類は発火等の危険が大きいため、特に注意する。
- 校舎や校庭等で危険と思われる場所に、立ち入り禁止の張り紙やロープを張るなど、二次災害を防ぐ。

救出活動 ・ 応急救護

教職員、児童

- 養護教諭中心に**救出・救急医療班**を編成し、応急救護にあたるとともに、地域医療救護拠点や医療機関と連携を図り、重傷者の搬送等を行う。
- 消防機関、消防団など地域住民の協力も得て、建物の倒壊等により生き埋めになった児童、教職員等の救出救助活動を行う。

情報収集 ・伝達

教職員

- 区災害対策本部と密接に連携をとり、地域や通学路の状況（家屋の倒壊、火災の発生、道路の亀裂、出水など）の確認に努める。
- 特に、児童の行動範囲が広がっているため、通学路上での被害の有無について情報収集に努め、状況によっては現地調査を行う。

状況に応じた引き渡し

教職員

- 保護者が引き取りに来るまで体育館に待機させ、児童の引渡しを開始する。

児童

- 保護者と帰宅中も、周りの建物等の状況に注意して行動する。

3 校外学習・遠足・移動教室等の時

安全確保・避難誘導	教職員
	○看板、家屋の外壁からの落下物・転倒物・高層ビルの窓ガラスの飛散から身を守るよう指示する。
	○古い建物や建設中の建物、ブロック塀、石塀、自動販売機、地割れした道路、倒れた電柱、垂れ下がった電線には近づかない。
	○海岸や海辺周辺、川岸、橋の上にいる場合には、津波のおそれがあるため、高台など安全な場所へ迅速に避難する。津波の高さは10メートル以上のビルの高さとなって襲ってくることもあるので、十分注意する。
	○山間部にいる場合は、山崩れやがけ崩れ、落石が起こる可能性があるため、迅速に安全な場所に避難する。
	○最寄りの避難場所など安全な場所に避難誘導し、児童の状況を確認する。
	○電車・バス等に乗車中の場合や施設内では、係員の指示に従って行動する。
	○負傷者の有無を確認する。
	○児童の不安の緩和に努める。
	○避難の際に援助を要する者への対応には十分配慮する。
児童	児童
	○落下物から身を守るなど、安全確保を図る。
	○教職員の指示をよく聞き、勝手な行動をとらない。
	○流言等の不確かな情報に惑わされず、落ち着いて行動する。

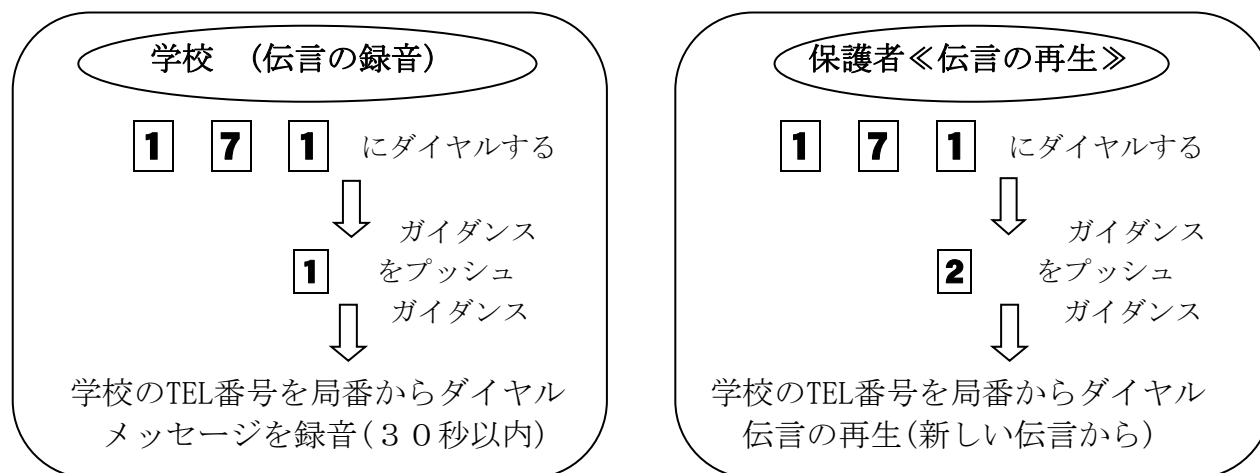
救出活動・応急救護	教職員、児童
	○負傷者が発生した場合には、応急救護にあたるとともに、必要に応じて地元の消防署に通報し、医療機関への搬送を行う。 ○建物の倒壊等により児童・教職員等が生き埋めになった場合には、地元の消防署、消防団等に救出依頼する。

情報収集・伝達	教職員
	○現地の教職員は、携帯電話等で学校に連絡し状況を報告する。
	○状況によっては、現地の行政機関・消防機関等に状況を伝える。
	○学校は、携帯電話等により現地における被害状況の把握に努める。
	○状況によっては、現地に救助・応援のため職員を派遣する。
	○保護者にできる限り詳しい現地の情報を伝える。

4 児童の引き渡し

児童の保護者への引き渡し

- ①震災時における学校の対応など防災に関する計画を保護者に周知するとともに、児童の引き渡しを円滑に行うため、引き取りカードをあらかじめ作成する。
- ②非常時における児童の引き渡しに関して、保護者への情報伝達として学校ホームページ、または災害用伝言ダイヤル（**171**）を活用する。



- ③引き渡しに当たっては、確認名簿に、引き取り者名を記入させ、保護者からの問い合わせにも対応できるようにする。

帰宅困難な児童の保護体制（五組児童も同様）

- ①児童が引き取られるまでは、安全な場所に集め、その場から離れないように座らせ、落ち着かせる。必ず、教職員が付き扱い、児童に安心感を与える。
- ②通信手段（電話、形態電話）が回復すれば、勤務先、緊急連絡先に電話する。

5 震度4以下への対応

震度4以下の地震が発生したときも、統括本部で検討し、状況により震度5弱以上と同様の対応をとることもある。その場合は、保護者への引き渡しだけでなく、地域別に教員が引率しての集団下校も考慮する。